

JGRレポート

JAPAN SPORTING GOODS RETAILER

第4号

平成10年1月1日発行

編集
全日本運動用具小売商組合連合会

発行
全日本運動用具小売商組合連合会

〒111 東京都台東区浅草橋5丁目8番6号
東京スポーツ会館202号室

電話 03(3865)7691番(代表)
FAX 03(3865)7704番



全日本運動用具小売商組合連合会
会長 魚見 秀男

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

平成3年のバブルがはじけていらい、不況も長く続き、政府の予測もなかなか明かりが見えてこない状況でございます。

昨年の後半には三洋証券の倒産をはじめとして、北海道拓殖銀行、山一証券と続き、平成大恐慌の前兆のようにも見受けられます。そのような中、私たちの業界は、規制緩和の流れの中、大規模小売店舗法の改正により500㎡の枠が外れたら、一挙に5,000㎡という超大型店の出現が相次いでおります。さらに海外からは「ザ・スポーツオーソリティー」をはじめ、「アスリートフット」、「フットロッカー」等のチェーン店が続こうとしております。完全な売り場過剰の中の大型店、チェーン店の出店ラッシュでございます。

本年も、まだまだ、大型店間の競争も厳しいときが続くと思います。

私たちの業界は、「ナイキ旋風」が吹き荒れた2年間であったと思うのでありますが、私たち「運動具店」は、スポーツ店の原点に返り、もう一回商売を見直してみましょう。お客様を大切にして、そのお客様が店のファンになるような、店作りをすることが基本だと思います。

良い年を迎えられますことを祈念して、年頭のご挨拶といたします。



全日本運動用具小売商組合連合会
理事長 辻本 昌孝

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

今年は私たちのスポーツ業界にとりまして、これ以上ない最高のイベントが二つもそろいました。

「長野冬季オリンピック」と「サッカーのワールドカップ」出場であります。

こんなに良い年はありません。この良いムードにのって、健康とスポーツにかかわる仕事に従事している喜びを、体いっぱいを感じ、「業界の変革」にチャレンジしていこうではありませんか。

初夢を一つ披露いたします。

過去業界の活動、いろいろな意見を振り返って見た時に、口では共存共栄を口にしながら利己的についつい陥りやすいものと存じます。

「小売店軍団」、「卸軍団」、「メーカー軍団」が口では「共存共栄」をうたいながら、利己的な行動をとれば、皆が「ブラックホールロード」への大行進。

しかし、例えば、小売店のパートナーは卸さんです。パートナーが、活性化しなければ、小売店の活性化はありません。小売店がパートナーの卸さんに喜んでもらえるように、「返品は自粛しよう」、仕入れの「支払いは現金にしよう」といったと仮定します。いっぺんにはすべてやることは大変としても、パートナーを思いやれることが「ヴィクトリーロード」への行進となるのではないのでしょうか。

地域スポーツの充実へ

生涯スポーツのねらいはここにある！

お客様：石川 晋 氏

聞き手：辻本 昌孝 理事長



石川 晋 先生と対談する辻本理事長

辻本「新年あけましておめでとうございます。」

石川先生「明けまして、おめでとうございます。」

辻本「石川先生におかれましては、大変お忙しい中、対談の時間を頂きありがとうございます。日本の景気も一部のメーカーを除き、証券会社、金融なども含め、流通も大変厳しい状態で年を閉じました。

しかし、スポーツ関係では、長野冬季五輪、サッカーもフランス・ワールドカップの出場を決め、明るい事業が続いております。これらをきっかけにして、スポーツ業界に明るさを取り戻したいものでございます。」

＊ ＊ 体育の時間削減は問題 ＊ ＊

辻本「まず、学校の体育教育ですが、土曜日が休日となる方向の中で、4時限の時間割のやりくりの中で体育の時間が削られるのではと心配しております。」

石川先生「確かにその傾向が現れてきていますが、ここが智慧の出どころでしょう。欧米の学校では特に体育の授業なんて無いんですよ。それは教育制度の組み立てが違うのと、スポーツを地域のクラブに任せている、という背景の違いがあるのです。極論すれば、体育は

親と教会に任せている、と言ったら良いでしょう。歴史的にいても、もともとそうだったのですね。」

辻本「日本では読み書きソロバンを公民教育の根本にして、体育まで学校が引き受けた、というわけですね。それで文部省は地域のスポーツクラブを育成しようとしているのですか。」

石川先生「それに急転換というわけではありませんが、地域のスポーツを充実させたいという理想は持っております。」

辻本「今年、スポーツのワールドサミット会議に参加して感じた事は、ドイツ、イタリアなどEUは、アメリカの言う事に簡単には追随しない様に感じましたが？」

石川先生「アメリカ追随ではなく、日本のスポーツを欧米スタイルに切り換えていこうとしているのですよ。ただ、体育の時間の削減に、私は反対で、心と体のバランスを育てないと、日本の将来は危ないと考えている一人です。

＊ ＊ 実質的なクラブハウスを ＊ ＊

辻本「今、地域に立派な体育館が増えていますが、賃借料が高くて、冠大会でないと使えないとか、シャワーもなく、施設がチグハグな面がありますね。」

石川先生「おっしゃる通り、必要以上にデラックスであったり、地域に片寄ったり、文化的伝統を無視したり、そのくせ中核となるクラブハウスは概してお粗末ですね、欧米のクラブハウスは一種の社交の場であり、コミュニティーの情報交換の場であり、大人から子供まで楽しめるように出来ています

辻本「日本では受験競争のあおりで、十分にスポーツを楽しめませんね、特に青春時代にスポ

ーツでエネルギーを発散させる事は情緒安定のためにも、切磋琢磨する中に人間関係、社会性の育成にも貢献するのではないのでしょうか。これらの欠如が、青少年非行化にもつながるのではないのでしょうか。」

石川先生「確かに、社会人ラガーとして有名になったプレーヤーで、もしラグビーに出会わなかったら、社会人として脱落していたかもしれない、というような話はいくらでもあります。」

だからと言って、青少年非行化を学校の責任ばかりにされると困るのです。やはり家庭での親の判断とアドバイスが必要で、国はそれに応じた施設を提供すべきだと考えています。」

辻本「早計に、学校体育を縮小するのではなく、社会体育の受け皿を作ってからにして頂かないと、マイナスのギャップが心配されます。」

石川先生「おっしゃる通りですが、先立つものは資金と言う事で、政府も「スポーツ振興くじ（サッカーくじ）」に踏み切ったわけです。販売方法など未確定な部分はありますが、もし、決まったら皆さんにも協力して頂くことになると思います。」

＊ ＊ 少子化傾向にストップを ＊ ＊

辻本「私達の業界の潜在的なお客様の減少は困る事ですが、それよりも、日本の将来を考えますと、少子化対策は強力に推し進める必要があると思いますが、奨励金を出すなどの施策はいかがでしょう。」

石川先生「そういう私も子供は2人ですので、大きな顔は出来ませんが、社会を形成するといわれます3人兄弟以上を奨励したいですね。」

国からは少額ながら3人目の子供から児童手当が出ています。そして、税制上の優遇措置もあるはずですが、雀の涙ほどの少額でしょう。

しかし、少子化になった原因はウサギ小屋と指摘されるような狭い住宅事情にあったと思います。もう住宅の絶対量不足の時代は過ぎましたから、今後は1戸当たりの面積も広くなり、景気が回復すれば、“3人育てたい”と言う家庭が増えてくるでしょう。それを期待したいものですね。」



暖かい感じで、お話を聞いた石川 晋 先生

辻本「もう一つお願いしたいのは指導者の育成ですね。文部省、通産省、労働省と言うように、日本には垣根が色々ありますが、シンプルに合理化、こういう所で、規制緩和を願いたいものです。」

石川先生「スポーツ店の今後の姿として、私見ですが、クラブハウスにあるプロショップ。そこにはスポーツの事、何を聞いても知っていて、やさしく相談にのってくれる店員がいる、そういう形態は日本には少ないかもしれませんが、近い将来のスタイルのように思います。」

辻本「スポーツ店の一つの将来像までお話頂き、ありがとうございました。私達、全運小連の小売店はこの厳しい中、“変革への挑戦”、“専門店として特色を持った店作り”に努力して行きたいと思います。先生におかれましては、健康にご留意され、これからも客観的な視点からアドバイス頂ければ幸いに思います。」

石川 晋氏 プロフィール

- * 昭和18年、横浜市生まれ、54才、東京教育大文学部（現 筑波大）卒業。文部省へ入省。東北大学庶務課長、文部省体育局、初中局、官房、各課を経て臨時教育審議会主任として法案作成。
- * 2002年ワールドカップ日本招致のため準備室長に就任、日韓共同開催の決定により行政官に終止符を打ち退官（平成9年3月）現在、スポーツ文化研究所代表、大学教授。趣味：囲碁（6段）、ゴルフ。

* 石川晋先生は 全運小連として常務理事会において、自民党の参院選比例代表候補として推薦致すことに決定しました。また、スポーツ振興連盟でも同様に推薦されておられますことをご報告いたします。

アメリカスポーツ流通視察と買い付けセミナー 報告

北海道スポーツ用品小売商組合
専務理事 石田 豊明

「アメリカスポーツ流通業をなぜ視察するのか？」
「アメリカスポーツ流通業に何を学ぶのか？」

近年我が国へのアメリカのグローバル・リテ일러（スポーツ・オーソリティ、フットロッカー等）の進出は目を見張る物がある

また、すでに日本全国に出店しつつあるアルペン、ゼビオ等も前記の2社や他業種のトイザラスの店舗展開を一部参考に行っている事も感じられ、我が国のスポーツ流通業全体がアメリカのそれを過剰に意識している感が拭えないからである。終戦後アメリカの影響を経済、文化ともに色濃く受けている日本経済はここ数年にわたる経済的なグローバル化、国内の規制緩和によって、異常な早さで変わりつつあり又変わらざるをえない環境におかれているのではないか。

そこで今回、我々は日本より、いち早くこのように大変な状況に置かれているアメリカの中小スポーツ店の視察を第一の目的として成田空港を飛び立った。

自由競争の国で巨大なグローバルリテ일러に囲まれているアメリカ中小店がどうなっているのか、いい形で生き残っているのか、はたまた競争の渦に巻き込まれて死滅しているのか、大変興味深いポイントであった。

5泊7日の研修ツアーはスポーツビジネスサポートの浪川壽夫氏をコーディネーターとして、現地より流通専門のツアーガイド、マイク古川氏にも合流いただき総勢33名でスタートした。

経営者ばかりでなく若い社員の方も多かった今回のツアーは熱心なコーディネーター、ツアーガイドお二人の助言もあり、サンフランシスコからロサンゼルスを経由して8時間以上という行程にも関わらず、各人と

も元気で、ハードな毎日を精力的かつ積極的に視察し、意欲的なその姿勢に私の気持ちも随分と励まされた感があった。

視察を続けて感じたことは各地の中小店も死滅することなく、業態の棲み分けを進めながら、しっかりと経営されていることであった。

最後の視察を終えホテルに移動するバスの中で浪川氏がとったアンケート（視察した50数店の中で印象に残ったショップ2店を記す）結果の上位2店が「オールスポーツ&サイン」と「チェックス・スポーティング・グッズ」であった。

奇しくも私の意見と同じであったこの2店は、自分の行く道を見失いそうな我々の前に大きく立ちはだかり、目の前の霧を吹き飛ばしてくれる存在感があった。

一店は外商の強化及びカテゴリーの特化による専門店としての生き残りであり、もう1店は近年セルフ方式のメガストアに飽き足らない顧客をしっかりとつかんだ地元総合店である。

◎外商主力店

一口に外商の強化といってもただ闇雲に多数の社員で外商をするのではなく、自店の特色（地域



アメリカの小売店を視察中の右より浪川氏とレポーターの石田氏

一番と自負するマーキング・システム)を出して、グローバル・リテラーには真似のできないカスタマーサービスに全力を傾けている点であった。

＊オールスポーツ&サイン

(2大都市の中間点サンタ・マリア市)

＊ブルースカイ・スポーティング・グッズ

(サンフランシスコ郊外ピノーレ市)

ことマーキングに関してはどこよりも優れた技術を持っていて他店の追随を許さないと自負するショップ等、狭い分野ではあってもユーザーの支持を得ることに全力を挙げてがんばっているよという答えがあった

◎ 地元資本の大型店

又、地元総合店の「スポーツ・シャレ」と「チックス・スポーティング・グッズ」は大型店ではあるが(500坪～1500坪)、フレンドリーな接客とコンサルティング・セールスに傾注した対面型スポーツ店であった。

＊チックス・スポーティング・グッズの新店

(ロサンゼルス郊外東部)

百貨店の売場を彷彿させる素晴らしい売場

一部分のみでも近づきたいと思った。

＊スポーツ・シャレの中型店

(ロサンゼルス郊外東部)

1980年オープンの少し泥臭さも残る売場だが従業員の接客姿勢が良かったことと、ひと味違うガット張り、従業員がきちんと接客しているスキー靴の試し履きコーナー、各種スポーツ関連書籍やビデオの販売、利用施設の詳しいガイドブック等、地に足の着いた経営姿勢を感じた。

最後に今回の視察研修セミナーを応援してくれた北海道ミズノ会、北海道ゼット会、そして北海道スポーツ用品小売商組合の方々に感謝を申し添え報告を終わります。

「各地の中小店も死滅することなく、業態の棲み分けを進めながらしっかり経営されている」とレポートされていますが、その当たりに焦点を絞って、次回も石田さんからレポートして頂きたいと思っております。

グローバルリテラーの店舗数・年商(1996年)抜粋

No	企業名	店舗数	売上高	1店舗あたりの売上高
1	フットロッカー	3,000	25.7億ドル(2,750億円)	86万ドル(0.92億円)
2	スポーツオーソリティ	160	15.5億ドル(1,660億円)	969万ドル(10.37億円)
3	LLビーン		10.7億ドル(1,145億円)	
4	チャンプス・スポーツ		7.1億ドル(760億円)	
6	フットスター	160	6.6億ドル(706億円)	413万ドル(4.42億円)
8	スポーツマート		5.3億ドル(567億円)	
10	ジャストフォーフィット	60	4.9億ドル(524億円)	817万ドル(8.74億円)
11	アスリートフィット	600	4.9億ドル(524億円)	82万ドル(0.88億円)
12	ネバダボブス		4.7億ドル(503億円)	
15	レディフットロッカー		4.4億ドル(470億円)	
16	ビッグ5		4.2億ドル(449億円)	
	アルペン	397	1,423億円	3.58億円
	ゼビオ(株)スポーツ	61	420億円	6.89億円

「ホノルルマラソンを走ろう」

実施：97年9月20日～10月20日

全運小連・中国ブロックは平成8年のスポーツイベント「スポーツマンはハワイが好き」に引きつずき、平成9年は「97ホノルルマラソンを走ろう」サブタイトル「広島空港発！ハワイ旅行プレゼント」という共同企画イベントを中国ブロック5県の組合員170店を対象に企画いたしました。抽選セット1口20,000円でご協賛頂いた賞品の都合もあり、135口を準備し、完売することが出来ました。

キャンペーンの方法

*参加店は1口20,000円でキャンペーングッズ購入、1キットには以下6点

- | | |
|----------------|------|
| ①ポスター | 6枚 |
| ②チラシまたははがき | 500枚 |
| ③三角くじ1セット | 100枚 |
| ④賞品：1等ハワイ応募はがき | 4枚 |
| ⑤：2等スポーツドリンク | 96ケ |
| ⑥抽選ボックス | |

*5,000円以上お買上げのお客に三角くじを1本引いて頂く

*三角くじは1等（当たり）、と2等（はずれ）があり

「当たり」…はがきで応募すると

「ハワイ又はスポーツグッズ」

「はずれ」…その場でスポーツドリンク

各店にいった、一口100枚の中に4枚の当たり券があり、その当たり券のはがきを本部へ郵送し、本部では、4枚*135セット=540枚集まってくる。

それを特選のハワイ旅行を15本とって、つづいてスポーツグッズを1等賞から、順に4等賞まで分け、本部より賞品発送にて当選発表に替えました。特選のハワイ旅行は15本しかないので、少なくとも、1県から最低1人はハワイ旅行が当たるように振り分けも配慮いたしました。



特賞のハワイ旅行は以下15名の方々が当選です。

- | | |
|-----------|---------|
| 1) 金平良叔功 | 広島市安佐南区 |
| 2) 中本芳博 | 呉市中通 |
| 3) 瀧上孝次 | 府中市目崎町 |
| 4) 中山恭子 | 竹原市本町 |
| 5) 小林和敏 | 広島市西区 |
| 6) 福永理恵 | 広島市西区 |
| 7) 高塚豊宏 | 東伯郡赤碕町 |
| 8) 米江 将 | 平田市奥宇賀町 |
| 9) 浜田 勉 | 隠岐郡西ノ島町 |
| 10) 重実晃子 | 倉敷市西中新田 |
| 11) 大福倫子 | 岡山市平山 |
| 12) 栗田里見 | 熊毛郡大和町 |
| 13) 吉田ひろみ | 防府市新田 |
| 14) 仲井融詞 | 山口市平井 |
| 15) 上田隆文 | 美祢郡美東町 |

ご協賛頂きました卸様、メーカー様 各位には、大変ご無理をお願いいたしました。

お蔭様を持ちまして、参加頂きましたお客様、組合員にも大変喜んでもらいました。この場を借りまして、卸様、メーカー様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

中国ブロック 会長 平岡 博
中国ブロック 事務局 渡邊 健介
(広島県理事長)

私も「スポーツ産業人の 倫理規範の確立」に同感

全運小連 理事長 辻本 昌孝

昨年、全運団連の年頭記者会見の場で、ミズノ株式会社水野正人社長はスポーツ産業人としての「倫理規範」作りを提案されました。

「自由公正競争を維持しながらも、もっと行儀良く、クリーンな産業にする必要がある。」という、判断からの提案のようでした。当日の突然のご発言でしたので、面食らった感じも致しましたが、後で読み直してみますと、うなずける部分も多々ありました。

水野社長私案の「スポーツ産業・倫理規範」は次のようでした。

- 1) 我がスポーツ産業は、自由で公正な競争と協調でスポーツ産業の健全な発展とスポーツの振興を通じて社会に貢献することである。
- 2) スポーツ産業は健全な産業活動を通じて消費者の需要に応えることはもとより、わが国にスポーツ、文化、経済、社会等の発展、ひいては国際社会の発展にも積極的に貢献すべきである。
- 3) スポーツ産業の構成企業において、利潤は社会的規範、倫理に基づいた行動により得られるものであることを確認する。
- 4) スポーツ産業の構成企業は企業行動を律する為に、その経営者及び社員には高い倫理観と厳しい自己規制が要求される。又社員教育を徹底し、産業の構成員がアンフェアな行動を許さない風土を作らねばならない。
- 5) 自然保護など地球的規模における環境保全を配慮する責任がある。
- 6) 政治、行政が国民全体に奉仕すべきものであることを認識し、いやしくも、自社の

利益を目的とした不透明な行為は厳に戒（いまし）めるべきである。

7) 行政に対しては、自由主義社会における企業として諸規制の緩和、撤廃を求めると同時に、スポーツ産業の構成企業自らも厳しい自己規制、自助努力が必要である。

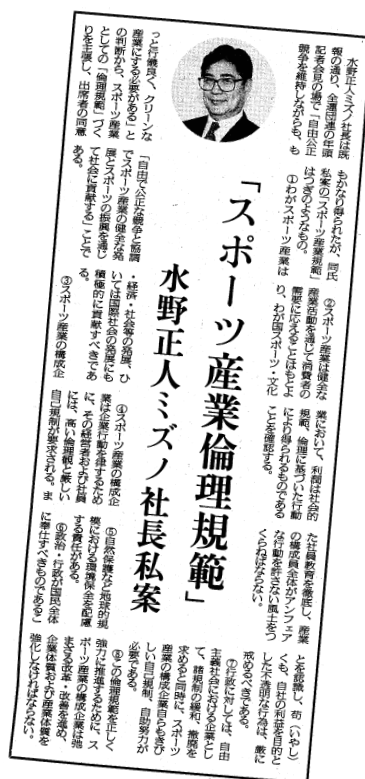
8) この倫理規範を正しく強力に推進する為に、スポーツ産業の構成企業は弛まざる改革、改善を進め、企業体質及び産業体質を強化しなければならない。

私は 水野社長のおっしゃるように、スポーツ産業人の倫理規範の確立に賛成でございます。

私たち小売店は全てとは申しませんが、ほとんどの小売店はスポーツ馬鹿のおやじがスポーツの振興、子供たちの健康を願いつつ、時には修理にきたスパイクが泥だらけ、道具はもっと大事にしなければいけないよと叱りながらも、汗とドロにまみれながら裏金修理をやってきたのが、スポーツの小売店だと思います。

そのころは、スポーツに公正取引委員会は要りませんでした。倫理規範が確立

していれば、「スポーツ公取協」も要らないはずなのに、今ほどスポーツ小売の強者と弱者に、格差のついた時はなかったと思うのですが、「スポーツ公取協」にもっと強権を持ってもらいたく思うのはなぜでしょう。



平成9年度（第3回）全運小連・常務理事会

日時：平成9年27日（木）12：30～16：00

場所：東京スポーツ会館4階・会議室

出席：魚見会長、成松副会長、辻本理事長、平岡、石井、谷副理事長、天沼会計、和歌、石田（北）、渡辺、小関、藤崎、森、岡本、茸谷、石田（長崎）、常吉常務理事、

委任状出席：下田、橋本副会長、服部、池田、上田、浅野、大上、前川常務理事、西宮、町田監事

代理出席：山崎会計

オブザーバー出席：吉永(スポーツ券)、宮崎、高辻(大東京火災海上)

【報告事項】

1) 各委員会からの報告

(a) スポーツ券委員会（石井副理事長）

* スポーツ券の販売は平成9年4月から10月は7ヶ月の累計38万枚で対前年プラス1万7千枚となりました。

* 「SPORTS FOR ALL カード」吉永専務 日本体育協会において、日本国内の体協関係者を対象に「Orico」によりクレジットカードを作られました。一つ目にこのクレジットカードの使用額に応じて、利用者にスポーツ券を進呈して頂けるという事、二つ目に体協関係の方々の持つカードですから、スポーツ店で利用して頂きたいと言う事、三つ目に銀行系の手数料は5%、信販系が4%の手数料が、この「SPORTS FOR ALL カード」は2%の手数料になるという事です。この特典があるためお願いがあるのです。特価品以外の商品に限り割引をお願いしたいのです。それは5%と

か、10%とかの割引です。子供は18歳未満でクレジットカードを使用できませんが、これには将来の予定で、スポーツ少年団に持たせる会員証でもって、割引の得点をつけたいと言う狙いもあるようです。

全運小連のスポーツ券取扱い未加盟店におかれましてはスポーツ券の加盟店になって頂き、合わせて、「オリコ」の「SPORTS FOR ALL カード」の取扱店になって頂くようお願いいたします。

(b) 見本市、個展、活性化委員会（平岡理事長）

* 全国高体連バレーボール協会の記念Tシャツ、記念トレーナーなど記念グッズのミズノとアシックスの直販の件、96年9月から67年8月の期限にて行ったが、結果は惨澹たる結果であり、今回はペナルティーを課さないでゆきたいと報告があった。

* 全運小連・全国総会・三層協議会にて、徳島県の真淵氏より報告があった名古屋からのダイレクトメールの件、その後改善されていると報告があった。

* 個展の集約化について、九州ブロックでおこなわれている個展の集約化について、谷副理事長から、それは九州の卸さん、メーカーさんの自主的な改善の繰り返しで、今があると



常務理事会（東京スポーツ会館・4階会議室）

報告があり、平岡副理事長は研究をしてゆきたいと報告。

- * 中国ブロック会は活性化事業の一環として、ブロックの加盟店135店が結束して、「ホノルルマラソンを走ろう」と言うテーマのもとスポーツ用品セールキャンペーンを9月20日から10月20日迄1ヶ月実施、スポーツ用品購入者の中から抽選で15人をホノルルマラソンに招待し、その他副賞として、スポーツ用品を進呈した。この事業により組合員は結束し、次年度も継続したいとの報告があった。

(c) J S E C委員会（谷副理事長）

- * インターハイが京都にて開催され、インターハイは序盤、中盤と雨に悩まされましたが終盤には天気も回復して前年度並みの売上が達成されました。辻本理事長が京都の陸上競技の最終日に激励にお伺いしました。
- * 国体は大阪にて開催されました。国体会場は会場が手狭であった事も影響して、テント数が予定の10%カットであったため、苦戦ではあったが記章協会が健闘、スポーツメーカーが苦戦というところで、全体としては前年度並みの売上が達成しました。開会式当日、平岡副理事長と私が激励にお伺い致しました。次年度国体開催予定の神奈川県からも10名ほどの視察団が来て、会場、及び大阪組合の事務局にて情報収集の機会を持っていました。このように円滑に情報が流れる事が、素晴らしい事と思いました。
- * 岡本理事長から「なみはや国体」の報告
人的にも、物的にも、事故も無く無事完了した事に対し、関係者各位に感謝申し上げたい。

(d) 公取協・P L・国際問題委員会

（辻本委員長）

- * 今朝のテレビで(株)ナイキジャパンに対し公取委が再販価格維持の疑いで同社の本社等へ立入検査がされたと報道がありました。
- * 暖冬、不況などで、一部の大型店の広告に二重価格の不当表示が見受けられるので、過去

の例によるとこのような事例は大変速く連鎖反応するので、早急にスポーツ公取協へ注意の呼びかけをお願いした。

- * 大東京火災の宮崎氏P L保険も3年目の契約の時期を迎えました。価格はより加入して頂き易いものに改善致しました。平成9年12月募集の3年目は1,180社の加入を頂けそうです。
- * 大東京火災の高辻氏事故の事例として、スノーボードによる骨折の件が報告されました。この事例は骨折した子供の親が、保険の取扱店と言う事で、なまじP L保険の知識があるため、解釈の点で器具の輸入元とくいちがいがあったようですが、しっかりとフォローしているとの事でした。事故の事例(2)として学校でミニサッカーのゴールが移動式であるがペグのようなもので固定しないで使用して事故が発生したと報告があった。

* 海外情報について小関常務理事より報告

過去2回 スポーツ小売の ワールドサミットに参加して、気になっていた事が一つありました。私達、日本を紹介する時にアジアの代表「日本」と紹介される事でした。辻本理事長と相談して、「スポーツ小売の組合はないか」と大洋州、アジア9ヶ国のスポーツ用品工業会の事務局へ問い合わせのFax. を送りました。返事がきたのは台湾とパキスタンの2カ国だけでした。それも今はないと言うものでした。しかし、パキスタンからは今後組合を作る様指導したいから、協力してくれと言うような内容でした。

このところアメリカのNSGA事務局 専務理事のドイール氏からアメリカのデータやレポートを送って頂いたり、先方から情報の依頼がきたりして、皆さんの協力を得て、資料を送ったりしております。

「JSRレポート」第3号の海外レポート「スポーツ小売業にカテゴリーキラーが誕生するだろうか？」(アル・アーバンスキー)も、ドイール氏から送って頂いたものです。自分自身大変忙しく、この不景気な時になぜと自問自答する事もあります。

今アメリカから続々と大型店が進出しております。日本のマーケットはアメリカの企業の思うがままにされておりますが、情報を公開し、新しい情報を入手しないと取り残されてしまうように思います。この関係を大事にしていかなければならないと思っております。

2) 平成9年度組合会費入金状況(事務局より)

11月26日現在、未収地区が13地区あります。

決算期の12月末までに、送金して頂く様再度事務局より督促致します。

3) 全運小連組合員名簿作成収支報告

3回ほどの修正を繰り返したにもかかわらず、まだ間違いがあった事をお詫び申し上げます。この名簿の作成は当初予定に無かった事業でしたので、特別会計として、卸、メーカー、業界団体の皆様に協賛金として、一口1万円として1口から8口の間でお願いしましたところ、大東京火災海上保険(株)、(株)エスエスケイ、(株)コイド、(株)アシックス、(株)デサントさんを初め沢山の企業、団体から、協賛金を頂き、お陰をもちまして、穴を空ける事無く事業が完了しましたことをご報告申し上げます。

協賛金収入	1,800,000
名簿印刷代及び郵送料	1,509,000
差引き残	291,000

4) ブロック大会出張報告(辻本理事長) 関東甲信越、東北、九州、近畿各ブロックに参加

その状況の報告があった。(別に報告)

5) 平成9年度中小企業製造、卸、小売のオープン情報ネットワーク開発事業の件(全運団連の補助事業)

11月20日大阪にて第2回本会議が開催された。その間実務的なことが3分科会で進行していて、

それぞれ経過報告がなされた。現段階において、我が業界ですでにメーカー主導型として、ASNET、GOAL(GW)、MOS(マルマンガルフ)、S-NET(ミズノ、デサント、GW)、そして卸主導型としてRIASS(ヤバネ)、SOLVES(SSK)、ZETTシステム、スクラム21(ダイオス、ニシナガ、コイド、キノヤ)以上8種類が稼動している。これらを現状のパソコンでオープンネットワークを作るということは大変なことと感じました。

6) 「(株)日本オペレーションセンター」と「全国スポーツ用品小売商連合」に関する件

神奈川県森理事長から「(株)日本オペレーションセンター」というところが安い価格のスポーツ器具のカタログを中学校、高等学校へ送られて困っている。このような事では外商が出来なくなるから全運小連で調べてほしいとの申し出があり、調べたところ、メーカーと語っている(株)日本オペレーションセンターがカタログに二重価格表示をしているので、「スポーツ用品の公正競争規約」に違反の恐れがあるということで、公正取引委員会に調査を依頼している最中です。

続いて、「全国スポーツ用品小売商連合」という「全運小連」と紛らわしい名前のところから、20万円の入会金を払い入会すると、スポーツ器具を安く卸すとのチラシが神奈川県を中心に郵送された。

しかし、その情報が発覚した時点ですでに募集締切日に近かった為、被害は出ないだろうと判断して調査をストップしたと報告。

【審議事項】

第1号議案 平成10年度大阪全国大会の 開催期日、会場決定の件

岡本大阪理事長より、開催期日、会場、登録料について、下記提案、原案通り承認可決された。

(a) 会議名：

平成10年度（第47回）全運小連定時総会
主催：全日本運動用具小売商組合連合会
主管：大阪スポーツ用品専門店協同組合
場所：帝国ホテル大阪

〒530 大阪市北区天満橋1-8-50 O A P内
期日及びスケジュール

3月11日水	15：00～17：00	理事会
12日木	09：00～11：30	JSEC関係者
	13：00～13：50	定時総会
	14：00～16：45	三層協議会
	18：30～20：30	懇親会
3月13日金		朝食後自由解散

*エクスカッション（ゴルフ、観光コース）

*時間については変更の場合もあります。

(b) 登録料

3月11日（水）小売	理事会、宿泊	25,000円
3月12日（木）小売		
	総会、三層協議会、懇親会、宿泊	30,000円
3月12日（木）卸、メーカー		
	三層協議会、懇親会、宿泊	38,000円

(c) アンケート

三層協議会のテーマを模索する意味で事前に常務理事にアンケートを求めた。14通の回答があった。

設問とその回答状況

（設問1）全運小連・各県組合に何を望むか？

回答1）情報（ニュースポーツ、大型店の出席情報）=9人

回答2）仲間意識=6人

回答3）勉強会（POP、宣伝、ディスプレイ、修理、ガット張り）=5人

回答4）リーダーシップ=4人

回答5）共同仕入=2人

回答6）懇親会（ボーリング大会、ソフトB、大会）=2人

（設問2）小売店にとって大変厳しい状況になっているが、何のせいかな？

回答1）大型量販店（アルペン、ゼビオ、ビクトリア、ヒマラヤなど）の攻勢=7人

回答2）大型量販店の春物展開に対するメーカーの対応=7人

回答3）規制緩和による大型店について行けない=5人

回答4）少子化、高齢化=5人

回答5）メーカーの直売店舗（ブランドショップ、ファクトリーアウトレット）=5人

回答5）商店街の歯抜け現象=3人

回答6）流行の速さについて行けない=3人

回答7）オーソリティー、フットロッカーなどアメリカ小売店の進出=3人

回答8）若者の小遣いが携帯通話料に取られている=2人

回答9）インターネットによる安売り=2人

（設問3）自分はこのようにして頑張っている。

回答1）外商（学販、企業、官庁など）に力を入れている=9人

回答2）専門種目（バスケット、テニス、卓球、ラグビーなど）にチャレンジしている=4人

(d) 三層協議会運営方法の件

平成9年度は三層協議会は加ト吉の加藤義和氏の講演とメーカーに対する四項目の質問状でした。

平成10年度については、岡本大阪主管理事長より、卸、メーカーとの話し合いを望む声も多いが、どのようにして運営するか、決め兼ねているので次回の常務理事会に、執行部と相談の上提案したいと申し出、承認された。

第2号議案 石川 晋氏 参議院比例区、 自民党候補の件

魚見会長から提案

この度、日本スポーツ振興連盟の推薦で前参議院議員の柳川覚治氏の後継者として、石川晋氏を全運小連として、推薦をするよう承認を諮ったところ、満場一致で承認可決された。

【要望事項】

第1号議案 表彰の件 石井副理事長から

総会において地区功労表彰をしているが申請のない県がありますが、副賞に1万円ほどの物も出ますから、こぞって申請するよう要請された。

【協議事項】

第1号議案 全運小連、役員改選の件

魚見会長より任期満了に伴う役員改選について、「現執行部は原則的に全員が留任する形にしたかどうか」と会長私案が示された。次回2月の常務理事会にて提案する会長案に一任してほしいと述べた。また、常務理事の選出は各ブロックから2名の推薦ということで、各ブロック会長に各ブロックで選出の上、報告を求める書類が事務局から発送されることが確認された。

会長、副会長は組合員から、そして、理事長、副理事長、会計理事は理事の互選により選任されることが確認された。

第2号議案 日本スポーツ用品厚生年金基金 金」への加入について

魚見会長から提案

平成5年7月1日付けにて設立した「日本スポーツ用品製造厚生年金基金」は当初「製造業」を核として運営していたが、それを広くスポーツ関連業界すべてを対象にした厚生年金基金にしようというものであり、詳しくは、次回常務理事会に来て説明してもらいたいと述べた。

第3号議案 次回開催日決定

期日：平成10年2月9日（月） 以上

スポーツ業界スケジュール 平成10年新春

1月6日火	関西スポーツ業界新年挨拶会
10：30～	場所：三井アーバンホテル
13：00～	共催：大阪スポーツ用品卸商業組合 関西スポーツ用品工業協同組合
1月7日水	新春年賀の会
12：00～	場所：上野精養軒
	共催：東京スポーツ用品卸商協同組合 東京スポーツ用品工業協同組合
1月8日木	新春年賀の会
13：00～	場所：名古屋厚生年金会館
	共催：名古屋スポーツ用品商工協同組合 名友会
1月22日木	全運小連・会計監査
11：00～	場所：東京スポーツ会館4階
1月31日土	第3回 スポーツ用品小売世界会議
	場所：I S P O '98ドイツミュンヘン
2月1日～	第48回 I S P O '98ドイツミュンヘン
2月7日	第18回冬季オリンピック
～22日	
2月9日	第1回 全運小連・委員会・常務理事会
11：00～	場所：東京スポーツ会館4階
2月17日火	スポーツビジネスフェア O S A K A
18日水	場所：インテックス
2月24日火	オープンネットワーク第3回本委員会
	場所：東京
2月25日水	スポーツジャパン'98春
～27日金	場所：東京ビッグサイト
2月25日水	ザ・トウキョウスポーツショウ'98/Feb.
～26日木	場所：東京ビッグサイト
3月11日水	全運小連・全国大会・理事会
15：00～	場所：帝国ホテル大阪
3月12日木	全運小連・全国大会
9：00～	J S E C
13：00～	総会
14：00～	三層協議会
各県総会、各ブロック総会等が、全国的事業と日程がダブらないよう、ご注意願います。	
総会の日程決定の前に事務局まで電話にて確認頂ければ幸いです。	

香川県

高嶺地区の現状

報告者 香川県運動用品小売商組合
理事長 前川 盛男

四国の玄関高松地区では全国的にも稀な大型店の出店ラッシュが起きている。

4月に「コトデンそごう」開店を契機にして、11月に地場大手スーパー「マルナカ」を中心とした「パワーシティ屋島」、ダイエー新業態「ショッピングモール屋島」と続き、さらに、平成10年秋には、広島の手スーパー「イズミ」が中心となる四国最大規模のショッピングセンター「ゆめタウン高松」が開店予定である。



高松スポーツデポ

特に、スポーツ大型店の出店がめざましく、「アルペン」の新業態の「スポーツデポ」1号店が平成9年10月24日に約1,500坪で高松にオープン、前述の「ショッピングモール屋島」の中にも「バンドール」がスポーツ売り場を約210坪で展開している。又、「ゆめタウン高松」には「スポーツゼビオ」が約750坪で出店予定をしている。なぜこれほど今になって高松に集中する訳として、もともと全国一狭い香川県は、県全体を一つの商圈とみなしており、さらに道路の整備により、徳島、高知、愛媛県等の一部も商圈とみなしており、さらに大規模小売店舗法の改正により、地元との合意というハードルがなくなった。そして地価の下落と低金利という社会情勢によると思われる。



高松バンドール

我々組合スポーツ専門店にも当然大きな影響が出ている。4年前「東四国国体」開催時に39店あった組合員が、廃業、脱会、等により、今は31店と減少している。

大規模小売店舗法の改正により大型店が出店しやすくなったが、香川県運動用品小売商組合として、「アルペン」の新宇多津店出店に際して、四国通産局、地元商工会議所などへ抗議を行い、1,000坪の出店予定面積を25%カットする事に成功した事を、最後に報告しておきます。



宇多津アルペン

広島県

広島県茸谷理事長が勇退 新理事長に渡邊 健介 氏就任

広島県スポーツ用品協同組合は先に総会を開催し、役員改選において、茸谷理事長から副理事長の渡辺氏にバトンタッチが行われました。

茸谷雄策氏（株・マルヒロ）は49才で理事長に就任され、一期3年を八期24年間に渡りお勤めになり、その間、昭和56年に組合の協同組合化をなされ、アジア大会、国体、そして全運小連の平成6年の全国大会を無事にこなされました。そして現在、全運小連の常務理事もお勤めでいらっしゃいます。

渡邊 健介氏（アクトスポーツ）は広島国体においても、木原国体委員長のもとで活躍なさいました。

渡邊新理事長におかれましては受け継がれました今、我が業界は、大変厳しい環境にはありますが、47才の若さで広島県のみならず全運小連をも、引っ張るくらいの勢いでお願いいたします。

兵庫県

体育の日のキャンペーン 「あなたは好きな人に 何を贈りますか？」

兵庫県では昨年10月10日、体育の日のイベントとして標記のような「好きな人に何を贈りますか？」と云う呼びかけことば入りのポスターを作製、店頭に掲示しました。第一回目の事業で予算も無かったので、組合員のカラープリンターによる手作りポスターでしたが、これは折角、私たちの業界の名前がついた祝日なので、これをなんとか生かし、業界にプラスになる事業になるまで継続したいということでした。

熊本県

「人光る・熊本未来国体 1999年(第54回)」を前に 「協同組合」化に成功

熊本県（浦田良輔理事長）は平成11年の国体を前にして平成9年4月をもって任意組合の熊本県運動具小売商組合から、「熊本県スポーツ用品協同組合」に生まれ変わられました。大変素晴らしいこととして、ご報告申し上げます。

「人光る・熊本未来国体1999年」が新組織で成功されますことを祈念いたします。

神奈川県

協同組合創業20年式典を開催

平成9年11月19日、神奈川県は国体の開催を目前に控え、20周年の式典を盛大に開催されました。式典の部、エキジビションの部、懇親会の部と行われました。



ご挨拶中の森神奈川県理事長

式典の部において組合の功労者表彰と、組合員のお店に勤務している社員の永年勤続を始め、功労者表彰がなされ、あまり見ないセレモニーでしたが、社員さん、従業員さんの為に良いことだと思いました。おめでとうございます。

平成9年が国体のリハーサル大会、平成10年の夏と秋に国体、平成11年春に全国大会の主管県ということで事業が続いておりますので、宜しくお願いいたします。

関東甲信越ブロック

関東甲信越ブロック(西宮会長)は9月24日(水) 水上温泉にて、埼玉県(町田理事長)の 主管にて総会が開催された。

総会後、商業活性化センターの神田邦夫先生の講演があり、その後の三層懇談会にて(株)アシックスの植月常務さんに、次のような実践的なご講演をして頂きました。

「今後の専門店のあり方への提言」

- 〈1〉正しい環境認識と市場理解
- 〈2〉専門店 生き残りのために
 - (A) 自社のポジションを知る。
 - (B) ショップアイデンティティと
 ショップコンセプト
 - (C) 結論に向けて
 - (a) 万能薬は存在しない。
 - (b) 戦略、戦術の原点は
 オリジナリティ
 - (c) 百の議論より1つに実践
 - (d) やりきる信念、決意、実行。
 - (D) 4つのフォーマットの検討
 - (a) 自社分析フォーマット。
 - (b) 競合分析
 - (c) 戦略マップ
 - (d) 年間行動カレンダー

東北ブロック

東北ブロック(渡辺会長)は 10月22日(水) 松島にて総会開催。東北ブロックは隔年開催ということで、岩手県と宮城県が交代で主管することになっておりました。今年は宮城県(小島理事長)の主管でした。

総会後、三層講演会が地域経営研究所 高橋和夫代表によって「都市の市街地の空洞化」と言うテーマで行われました。

東北地域は人口において過疎の状況で、バブルの時のプランでニュータウンの開発、整理組合の清算のため、保留地が販売され、そこへ大

きなショッピングセンターが来る、従来の商店街は菌抜け状態。

また、新幹線が完備したため一局集中で、山形、盛岡と言った都市からでも新幹線に乗って仙台へショッピングに行くと言った図式であるとの事でした。人口の過疎という問題を切実に感じました。

九州ブロック

九州ブロック(石田会長) 11月5日(水) 博多にて総会開催。福岡県(谷理事長)の主管にて開催。まず、驚いたのが出席者の多い事でしたブロックで300店のうち、100店の参加でした。卸さん、メーカーさんが合わせて50人、最終的には150人の参加でした。



九州B.の石田会長、笹渕事務局、主管県谷理事長



大阪卸の井本会長、小西理事長、渡辺副理事長
と九州卸の小井土会長

総会において各県報告がありました。報告の中に共通してありましたのが、組合員の廃業で

した。中に大変うれしい報告は熊本県の組合が1999年の国体を前にして、協同組合化を達成された事でした。

総会の後は二層（小売と卸）懇談会が2時間もたれました。この二層懇談会は事前に準備の会議も持たれ、お互いに生き残るための真面目な会議でした。まず、主管県の谷理事長より「組合員の20%はメーカー直の取引が出来るでしょう。しかし、80%の組合員は問屋さんがなかったら商売をやって行けない。だから小売店は問屋さんともっとしっかり取り組まなければ将来はない。」ということを前提として話し合いがあった。卸サイドから卸業維持のために、社員の販売応援の自粛、定番物の返品の自粛、定番外の返品なしのルールなどの要望が出、それに対して小売サイドからは返品が無い場合、現金払い等の契約の明確化などの要望が出た。

この事例のように、それぞれ自分に都合のいい事を言うだけでなく、お互いにつらい事も言いながら、お互いに生き残るにはどうしようと模索する会議のようでした。

このようなパートナーを思う姿勢こそ、その次に何か生きる道を私たちに、与えてくれるような気が致しました。

近畿ブロック

近畿ブロック（岡本会長）は11月12日、奈良市にて奈良県（小玉理事長）の主管にて開催。

総会議事終了後各県より状況報告があり報告があった。他ブロックと同様、大型店の進出、組合員の廃業、減少などが伝えられたが、他ブロックとの違いは今年、京都にてインターハイが、大阪にて国体が開催され、異常気象にも悩まされたにもかかわらず、ほぼ予定の販売目標が達成されました。組合員が共に一つのことで行動したことにより、仲間意識、連帯心ができて良かったとの、談話を聞き共同で行う組合事業の素晴らしさはここにあると思いました。

数字はパワー、全国大会に こぞって多数参加しましょう

主管：大阪スポーツ用品専門店協同組合

期日：平成10年3月12日（木）総会・三層協議会

会場：帝国ホテル大阪

詳しくは、主管県より案内が参ります。

編集後記

グローバルスタンダードということで、規制緩和が当然のごとく進められております。民主主義の今、なぜ、弱肉強食が許されるのでしょうか。

しかし、一方でグローバルスタンダードと言いながら、金融業界は低金利政策のまま規制が緩和されません。なぜこのような使い分けが出来るのでしょうか。

日本の自動車、コンピューターを初めとする、一握りの企業が頑張ってくれるお陰で、日本の国際収支は黒字です。黒字が多くなると、アメリカから門戸を開けとプレッシャーをかけられるので、規制緩和は推し進められます。一握りの企業は素晴らしい製品を作って、お国に外貨を稼いでくれるから、素晴らしいことですが、一握りの素晴らしい企業の為に、多数を占める零細業者が犠牲になり、外圧から守られないでいて、失業が多くなる。これでは政治不在ではないのでしょうか。

昨年の2月、第二回目のスポーツ小売ワールドサミットで、ミュンヘンispoに出席してまいりました。

ドイツは、対米輸出にのみに依存していないので、アメリカに対して、へりくだっていないように思いました。しかし、質素でした。例えば、日本はパーティーの食事にしても贅沢で、食べ残しがいっぱいですが、ドイツはたまたまかもしませんが、無駄をしないように取り、きれいに食べていました。ですから、ドイツはアメリカ流に押し切られない自主路線があり、スポーツ業界にもその強さを感じられました。

ドイツではオリンピック、サッカーのワールドカップなどビッグイベントの報道を独占させない法律を作ると最近の新聞に報道されておりました。これなどもアメリカ流の商業主義に対するドイツの抵抗だと思います。

押し付けられるがままの、無政策で主権国家なののでしょうか？これで本当の民主主義なののでしょうか？日本も私たちの生活レベルを一步後退させても主権を守る勇気を持つ必要があるように感じました。（MT）